



アメリカフウ
(大庭)

つながい

自ら動き、感じ、楽しむ ～笑顔あふれる幼稚園～
～やさしく かしく たくましく～

第 8 号

令和4年11月21日発行
山口大学教育学部附属幼稚園

「自己と向き合う子ども」を求めて～幼小中での取組

副園長 大森 洋子

数人の子どもたちが集まって一緒に過ごす姿が、ずいぶん^{さま}と様になってきました。その年齢なりに友達を求めて、言葉を交わしたり、思いを言い合ったり、相談したりしていて、必要感のある「集団」となっていることが見て取れます。そして、その根底には、学年の後半を迎え、それぞれの友達の性格や好み、良さなどが分かってきて、受け止めようとする姿があるように思います。深まりゆく秋のように。これからは人間関係もぐんと深まっていくときです。変化や成長を楽しみにしながら、支えてきたいと思っています。



さて、やまぐち学園(附属幼・小・中)では、この数年「対象・他者・自己と向き合う姿」を視点として保育・授業研究をしており、今年度は「自己と向き合う姿」を中心に考えているところです。「保育」でめざす「自己と向き合う姿」とは、ものや人と関わりながら遊びを楽しむことを通して、①自分なりの思いをもったり、②自分でしようとしたりして、③自分から意欲的にかかわり、④自分でできることを喜んだり、⑤充実感や達成感を味わうことだと考えます。また、⑥目的に向かって繰り返し挑戦したり、⑦考えたり工夫したりして取り組んだり、⑧見通しをもって取り組んだり、⑨自分なりの役割を果たしたりして、⑩皆の役に立つ喜びを感じたり、⑪自分の成長を感じたりして、⑫自信をもって過ごすことも目指しています。

このような子どもの姿が育つように環境と援助を考え、それが適切であったかを探るのが私たちの研究です。子どもの姿が全てを物語っていると考え、子どもの姿から振り返り考えることを基本としています。

3歳児のAちゃんは、自分のしたいことはしっかりあるけれど友達にはあまり関心がありませんでしたが、Bちゃんと遊びたいという気持ちが芽生えてきました。興味のあるダンスの環境を用意してそこで一緒になったり、先生に促されて誘う言葉を使ってみたりして、一緒に遊ぶことができ、「一緒に遊べてうれしかった」という気持ちになりました。4歳児のCちゃんは、「縄跳びか跳べるようになりたい」という気持ちから、「どうやったら跳べるんだろう？」と跳べる友達の様子を観察したり、先生からコツを聞いたりして、繰り返し何度も取り組み、ついに跳べるようになって「跳べた！」という満足感を味わいました。

5歳児のDちゃんたちは、自分たちのお店屋さんさんに小さい組の人たちを招きたいと考え、先生のアドバイスを受けながら、客が来た際の見通しをもって店構えを工夫したり、チケットを用意したり、役割分担をしたりして開店し、小さい人が喜んでくれて「お店屋さんさんが成功した」という達成感を味わいました。

25日の公開研究会では、このような実際の子どもの姿を通して、それぞれの年齢や時期にふさわしい環境や援助について提案し、協議する予定です。

ところで、保護者の皆様には、先日保育参観をしていただきましたが、お子様には、あるいは子どもたちには、上記①～⑫のような姿が見られたでしょうか？ 振り返ってみていただくと幸いです。私たちは、客観的に見て何かができるようになるということではなく、子どもが「自分ごと」としてかかわり、「自分が主語となる力」がついていくことをめざしています。保育で見られるこれらの「自己と向き合う姿」は、小学校以降の「学びの本質」に気づいたり、「学び」を自覚したり、活用したり、課題を見つけたり、問い続けたりする「自己と向き合う姿」へと繋がっていくと考えています。



花組：どんぐりや落ち葉などを貼ったり飾ったり見立てたりして、遊びに使っています。クッキー屋やケーキ屋にも使っていました。秋の素材は、想像力を沸き立たせてくれます。



風組：どんぐりを剥いて、ゾウムシをたくさん出していました。なかなか根気が要ります。興味をもった友達が集まります。そばにはゾウムシが載っているページを開いた図鑑が置いてありました。



生長を楽しみにしながら、チューリップや玉ねぎを植えました。

星組：築山の斜面を利用してどんぐり転がし。ホットボンドで秋の自然物をくっつけたり、作ったものに色を付けたら…。



稲刈りや芋掘りをして、その後の畑には、ブロッコリーやキャベツ、チシャなどを植えました。



いつもありがとうございます。落ち葉掃きには、いつも多くの方にご協力いただき、本当にありがとうございます。毎回あっという間に綺麗になってすごいなあと思っています。早めの登園の方が花組周辺を掃いてくださったり、数本の熊手を持って裏庭へ回ってくださったり、ゆっくりの登園の方が大庭あたりを掃いてくださったり、ゴミ袋を運んで下さったり・・・こんな風に、それぞれができる範囲でお手伝いいただき嬉しい限りです。「赤ちゃん抱っこ組」もたくさん参加して下さって恐縮していますが、「綺麗になる」こと以上に、「綺麗にしている保護者の方々の姿を見る」ことにとても意味があると思っています。「〇〇ちゃんのお母さんだ」「頑張れ〜」「綺麗にしてくれてありがとう」・・・そんな子どもたちの声が聞こえます。手伝ってくれる子どももいます。子どもたちと保護者と教職員が一緒になって「幼稚園の環境を創っている」ということが大切だと思っています。

11月18日の大掃除にもご協力いただきありがとうございました。散歩から帰ってきた子どもたちは、「きれい〜」「なんか空気が違う」などと言っていました。お客様をお迎えできることも嬉しいですが、やはり綺麗な所で子どもたちと生活できることが何よりです。美しい環境は美しい心をつくります。保護者の皆様のお力も借りながら、私たちもしっかり頑張ってきれいにしなくては・・・とつくづく思いました。頑張ります！！



大掃除

環境部さんによる花の植え替え (11/1)